

# AICC

あいつく・にゅーす

# NEWS

## '99 AKASHI産業フェア出展企業募集



▲'98AKASHIテクノフェア

「21世紀の地域産業を担う産業人の育成」や「企業活動のアピールとビジネスチャンスの創出」などを目的として、「99 AKASHI産業フェア」を11月26日、27日の両日にわたり開催します。当フェアは明石市内の事業所などで生産・加工・研究開発または販売される製品から最新のソフトウェア開発等新技术を一堂に展示し、その実演・体験などを通して、広く内外の企業や市民に紹介するものです。

昨年は、明石市立産業交流センターのオープニングイベントとして、「98 AKASHIテクノフェア」を開催し、お蔭をもちまして盛況のうちを終了することができました。

ぜひこの機会にご出展いただきますようご案内申し上げます。

- 日時 平成11年11月26日(金)～27日(土) 午前10時から午後5時まで
- 会場 明石市立産業交流センター1階展示場他
- 主催 明石市、(財)明石市産業振興財団
- 出展対象 明石市内に事業所を有する企業・団体などが生産・加工・開発又は販売する製品から、それに関連する技術要素の展示、ソフトウェアの展示など産業に関するもの全般。
- 募集小間 50小間
- 小間寸法 1小間(間口2m×奥行2m×後壁高2.5m) 最小出展単位とします。
- 出展料 1小間35,000円(税別)
- 申込期限 平成11年9月30日(木)
- その他 会期中は、併催事業として経営講演会、技術講習会、パソコン無料研修などを予定しています。

### 経営講演会

## 中小企業の底力 日本は、俺たちが支えてきた

一部景気改善の兆しは見られるものの、日本経済は依然として厳しい状況にあります。

そうした中で、最近、経済関係雑誌などでにわかモノづくりがとりあげられることが多くなってきました。それらによると「護送船団方式でやってきた産業はダメだが、急激な国際化の進展の中でグローバルな競争を強いられてきた製造業は、まだまだ健在だ。」ということとです。

そこで、通産省時代から、100以上の工場を直接訪問し、日本の製造業の実情に詳しい政策研究大学院大学教授の橋本久義氏をお招きし、日本経済の現状を踏まえながら、製造業(中小企業)の底力、今後の展望などについて、ご講演をいただくことになりました。多数の皆様にご参加をいただきますようご案内申し上げます。

- 日時 平成11年9月17日(金) 午後2時～午後3時30分
- 会場 明石市立産業交流センター 4階研修室1
- 主催 明石市 (財)明石市産業振興財団
- 後援 明石商工会議所 明石工業高等学校
- 対象者 市内企業、一般市民
- 定員 140名(定員に達し次第締め切ります。)
- 参加費 無料

### 講師プロフィール



政策研究大学院大学教授

橋本久義氏

1945年、福井県生まれ。東京大学工学部卒業後、通産省に入省。JETROデュッセルドルフ出向、通産省復帰を経て、94年埼玉大学教授、97年政策研究大学院大学教授。主な著書に「今世紀最後の景気始動」(かんき出版)、『町工場』の底力(PHP研究所)がある。



## 産業技術交流セミナーのご案内

産業界を巡る経営環境は急ピッチで変化しており、企業にはより革新的な経営展開が求められています。しかしながら、個々の企業が新たな分野に進出したり、積極的な技術革新を図ろうとしてもその道程を自力で切り開いていくことは困難です。

そこで、自社の技術や発想を他の企業や大学などで保有・蓄積されている資源と融合し、補完し合いながら事業化を推し進めていくことも有効な経営手段の一つです。今回、地域における産業交流の機運を高めるため、専門家による講演と参加者相互の交流会を下記のとおり開催します。市内産業界の多数の皆様方のご参加をお待ちしております。

- 日時 平成11年8月25日(水) 午後3時～午後5時30分
- 会場 明石市立産業交流センター4階研修室
- 定員 50名(先着順)
- 内容
  - ・あいさつ 午後3時～午後3時5分
  - ・講演会 午後3時5分～午後4時30分

【講演テーマ】  
『ものづくり』と発想の転換  
～ゆとり、夢と創造～

【講師】  
酒井理化学研究所 主宰  
理学博士 酒井 弥氏

平成の平賀源内や北陸のエンソンとも呼ばれる先生は、研究開発において次々とヒットを飛ばされ、多くの斬新な研究成果を取られ、また著書も多数出版されております。マスコミでも大きく取り上げられており、わが国のシンクタンクとして活躍されております。先生のものづくりに関するお考えや具体的な成果物などについてお話をいただきます。

- ・交流会 午後4時40分～午後5時30分
- 参加費 お一人 2,000円

### ○各事業の申込及び問い合わせ先

(財)明石市産業振興財団  
☎078-9367915 FAX078-9367916

## 特集

### 技術移転機関(TLO)

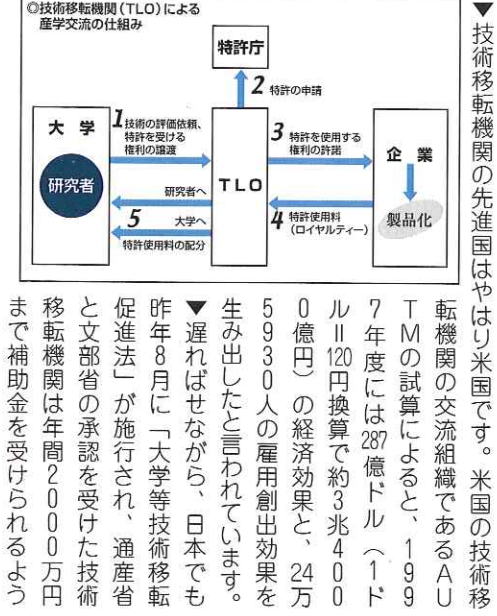
今回より、技術、経営など産業界に関する分野で、注目されている話題について、特集します。

第1回目は、わが国の産業再生の切り札として期待されている技術移転機関(TLO)Technology Licensing Organization)です。

▼企業と大学など研究機関の新たな橋渡し役として、技術移転機関が注目を集めています。技術移転機関とは大学や大学の研究者が設置する組織で、その名の通り、大学に眠っている技術を発掘し、民間企業に移転することを目的としています。

▼その機能は左図の通りです。技術移転機関はまず、研究者の研究成果を評価し、有望と判断すれば、その研究者から特許を取得する権利を譲り受けて、特許庁に申請します。一方で、特許の利用を希望する企業を探し出して契約を結びます。企業が製品化に成功したら、特許利用料(ロイヤルティ)を得て、管理・運営費などを差し引いてから、大学や研究者に還元する仕組みです。

▼教授など研究者は、特許取得の手續きに煩わされずに済み、資金の流れが透明になるので研究成果の報酬も受け取りやすくなります。大学にとっても新たな研究資金の獲得手段となります。また、企業側も社外からビジネスの種を見つけ出しやすくなるというメリットがあります。



▼技術移転機関の先進国はやはり米国です。米国の技術移転機関の交流組織であるAUTMの試算によると、1997年度には28億ドル(1ドル1120円換算で約3兆4000億円)の経済効果と、24万5930人の雇用創出効果を生み出したと言われています。

▼遅ればせながら、日本でも昨年8月に「大学等技術移転促進法」が施行され、通産省と文部省の承認を受けた技術移転機関は年間2000万円まで補助金を受けられるよう

◎通産相、文部相の承認を受けた技術移転機関(TLO)の概要

名称	設立年月	技術提供する大学など	組織形態
先端科学技術インキュベーションセンター	1998年8月	東京大学	東大の研究者有志が出資した株式会社
関西ティール・エル・オー	1998年10月	京都大学、立命館大学など関西圏の大学	京大の研究者有志や、立命館大、地域企業などが出資した株式会社
東北テクノアーチ	1998年11月	東北大学など東北圏の大学、高専	東北大など東北地域の研究者有志が出資した株式会社
日本大学国際産業技術・ビジネス育成センター	1998年11月	日本大学	学内にセンターを設立し、学校法人として承認を受けた
筑波リエゾン研究所	1997年5月	筑波大学	筑波大の研究者有志が出資した株式会社
早稲田大学	1996年6月	早稲田大学	学内の学外連携推進室で対応。学校法人として承認を受けた

少子化で将来の研究資金確保に危機感を抱いており、技術移転による収入増に取り組みざるを得なくなっているためです。

▼昨今、日本においても技術移転機関の必要性は広く語られるようになり、一部の大学研究者の意識が変わり始めているのも確かです。しかし、ようやく緒についたばかりで、先進国の米国でも、技術移転が本格的に実を結んだのは制度発足後10年以上経ってからのことです。

▼日本で技術移転機関を社会に定着させ産学の新たな関係を築いていくためには、大学における「市場原理・競争原理」の導入や特許意識の高揚、企業における技術の種を見つけて出す「目利き」の養成、産学双方における外部資源との効率的な融合による「自前主義からの脱却」などクリアしなければならぬ多くの課題があることも事実です。

▼今後、技術移転機関が、有効に機能し、新規産業創出の原動力となり、日本の国際競争力を維持、飛躍させることに期待します。

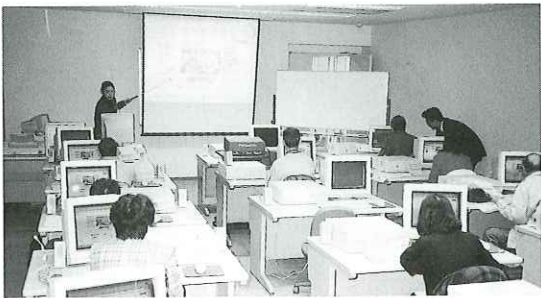
(本)記事は、『日経ビジネス』1999年5月31日号より、転載したものです。また、一部内容については、アンダーセンコンサルティングより、提供を受けています。

になりました。5月末時点では上表のように6つの技術移転機関が政府承認を受けており、他の大学でも設立や承認に向けた動きが相次いでいます。兵庫県下でも(財)新産業創造研究機構(NIRO)、兵庫県、県内の大学(神戸大、姫路工業大、神戸商船大など)が共同で、技術移転機関を

発足させる予定であり、すでに研究会が発足し、政府承認を受けるため、今秋にも申請します。各大学とも、



産業交流センターパソコン教室 8・9月コース



産業交流センターでは、市内企業等のOA化普及に伴う企業の人材育成、新入社員研修、個人の能力アップを目的に各種パソコン教室を開催しています。コースは以下のとおりです。社内研修等にぜひご利用ください。また、下記コース以外にも、企業単位やグループ単位などによるオーダーメイドのパソコン教室も実施しておりますので、お気軽にご相談ください。

◆講習内容

コース名	講習内容	講習日程		受講料 (税込)	テキスト代 (税込)
		8月	9月		
パソコン入門 Windows98	パソコンの基本操作習得 マウス操作・文字入力・ウィンドウの操作アクセサリの紹介。環境設定などパソコンを使う上で必要なWindows98の各種機能や活用方法を習得します。	18日(水)	10日(金)	10,500円	1,785円
パソコン基礎習得	パソコンの基本操作からワープロ・表計算まで、実務で利用する為に必要な内容をセットにしたお得なコース。これだけ出来ればパソコンが使えると胸を張れます。	18日(水) 24日(火) 25日(水)	10日(金) 17日(金) 24日(金)	28,350円	6,885円
ワープロ基礎 Word97	ワープロの基本操作習得 文字入力・文書の編集・書式設定・表の作成・編集・印刷・表現力のある文書の作成などを学習します。	24日(火)	17日(金)	10,500円	2,550円
表計算基礎Ⅰ Excel97	表計算の基本操作習得 計算機能 表の計算・編集 印刷など作表の基本操作を学習します。	25日(水)	24日(金)	10,500円	2,550円
表計算基礎Ⅱ Excel97	表計算の基本操作習得Ⅱ 効率的な作表方法・グラフ・データベース機能など表計算ソフトの効率的な活用方法を学習します。	31日(火)	30日(木)	10,500円	
表計算基礎集中 Excel97	仕事に役立つNo.1ソフト 表計算の習得 計算機能 表の計算・編集 印刷など作表の基本操作から、効率的な作表方法・グラフ・データベース機能など表計算ソフトの効率的な活用方法までを学習します。	25日(水) 31日(火)	24日(金) 30日(木)	18,900円	2,550円
インターネット基礎	インターネットの概要・設定方法・ホームページ閲覧・電子メールなどを学習します。	6日(金)	16日(木)	5,250円	1,220円

◆講習時間

昼間コース	10:00~17:00	昼間インターネット	13:30~16:00
-------	-------------	-----------	-------------

公的支援ガイド検索内容の具体例

具体例	検索キーワード(例)		表示される制度(例)
	利用目的①-1	利用目的②-2	
■新分野へ進出したい。 ■海外展開を図りたい。	経営・事業運営に関して	新分野進出等に関して	中小企業新分野進出事業(補助) 中小企業新分野進出等円滑化貸付(融資) ...
■物流の効率化を図りたい。 ■流通システムの改善を図りたい。	経営・事業運営に関して	流通および物流の効率化に関して	地域中小企業物流効率化促進事業(補助) 物流近代化貸付(融資) ...
■コンピュータを活用して業務を効率化したい。 ■LANを導入し、情報の共有化を図りたい。	情報関連機器、エネルギー、環境対策設備の導入に関して	パソコン活用に対する支援に関して	組合情報ネットワーク化事業(補助) 中小企業設備近代化資金貸付制度(融資) ...
■税制上の優遇措置を受けたい。	支援制度の概要に関して		設備投資減税(税制) 欠損金の繰越し(税制) ...

この度、(財)阪神・淡路産業復興推進機構では、中小企業の事業者の方々が国や兵庫県等の公的支援制度をより簡単に調べられることができる中小企業向け公的支援制度検索システム(公的支援ガイド)のサービスを始めました。

この「公的支援ガイド」は、インターネット上で補助・融資・出資・信用保証・税制の5分野において、数々の支援制度の中から、中小企業の事業者の方々ニーズにあったものを対話形式により簡単に検索できるようになっています。

また、中小企業の新たな取組み拡大のために「使えるメーカーガイド」(中小企業紹介データベース)も掲載しており、被災地域の中小企業が保有している技術シーズおよび得意とする製品を広く紹介しておりますので、併せてご利用下さい。

▼問い合わせ先 (財)阪神・淡路産業復興推進機構 高度化推進部  
HPアドレス <http://www.haro.or.jp/k-suda/>  
HPアドレス <http://www.haro.or.jp/k-suda/>  
TEL(078)3600-1058 FAX(078)3600-1137

※※行政情報プラザ※※

公的支援ガイド(中小企業向け公的支援制度検索システム)



# 会社拜見

Vol.2

日常生活の必需品である「紙」はパルプ繊維をつないで板状にしたものですが、そのままでは用途によっては使えないなど色々な問題があります。

そこでこの紙に色々な性質を与える薬品が重要な役割を果たしています。

会社拜見の第2回は、こうした工業用薬品を供給し、縁の下の力持ちとして製紙・印刷産業の先端技術を支える機能性樹脂メーカーの星光化学工業(株)を訪ね、同社取締役管理本部長の梶野一夫さんにお話をうかがいました。

**Q**…御社の事業内容をお聞かせください。

**A**…当社は紙の品質を高める製紙用薬品や印刷精度の向上のための印刷インキや塗料用樹脂の開発・製造を通して、紙・パルプ産業ならびに印刷産業の発展に貢献してきました。

製紙用薬品としては、インキのじみを防止するサイズ剤、紙の強度を高める紙力増強剤また印刷インキの乾燥性を向上させたり光沢を与えたりする樹脂や、レーザービ



本社会屋



代表取締役社長 松浦 洋氏



ロジン

ロジンは松科植物から得られる樹脂で、一般的には「松脂(マツヤニ)」と呼ばれる樹脂酸。松の木の外皮に傷をつけて樹液を集め、蒸溜するとロジンとテレピン油が取れる。

ームプリンターや複写機に使われるトナー用樹脂などを業界に先駆けて開発しました。

**Q**…御社にとって「ロジン」との関わりは切っても切れないものだと聞いていますが。

**A**…「ロジン」とは松脂(マツヤニ)からとれる樹脂酸のことで、野球などで使うすべり止めのロジンパウダーが一般にはなじみがあると思います。当社は製紙会社向けロジンの販売から事業をスタートさせました。その後、これを原料にインキのじみ防止する「サイズ剤」の生産・販売を開始したことから今日の機能性樹脂メーカーとしての礎を築きました。その後、ロジンで培った独自技術などを基盤に印刷インキ用樹脂やトナー用樹脂などの石油化学系の樹脂の開発にも成功するなど、ロジンに関する独自の技術が当社の強みとなっています。

**Q**…製紙・印刷業との関わりは深い御社にとって環境問題への対応は不可欠なものだと思いますが。

**A**…そのとおりです。環境問題への対応は当社にとっても、経営戦略上の重要なファクターであり、これまでもこのテーマを視野に入れ、研究開発を行ってきました。例えば食品のパッケージやダンボール、玩具など、手に取る商品の安全性を守るための水性インキ用樹脂をいち早く開発しました。また、資源の有効利用の面からも、今後ますます再生紙が普及することが予想されますので、その製造過程で当社の製品が生かされるものと考えています。

**Q**…最後に今後の事業方針をお聞かせください。

**A**…当社は、2001年に創業50周年を迎えますが、現在、それに向けて「チャレンジ50」を掲げ、環境保護、安全性、利便性、省資源の4つのテーマを目標に技術開発を進めています。今後、21世紀の新しい産業社会の発展と豊かで潤いのある暮らしの文化の発展のため、新たな技術フィールドに「チャレンジ」してまいります。

**星光化学工業株式会社 会社概要**  
 代表取締役社長 松浦 洋  
 所在地 明石市立石1-1-1  
 資本金 8億6,875万円  
 事業内容 製紙用薬品、インキ用及びその他用樹脂の製造・販売

## 産業交流センター 施設紹介

Vol.3

### 研修室1

研修室1は、当センターで最も利用率の高い部屋です。面積は263㎡(席数144席)ですが、可動間仕切りにより3分割して使用することもでき、その場合はそれぞれA室は104㎡(席数60席)、B室は74㎡(席数39席)、C室は74㎡(席数39席)となります。A室とB室、B室とC室といった利用もできます。

この部屋には、大画面のプロジェクターが備えられており、ビデオ、8ミリビデオ、CD、LD、スライド、書画カメラが利用でき、またパソコンからの出力も可能です。(ただし、B室とC室だけの利用の場合は、プロジェクターは利用できません。)

利用形態も様々で、プロジェクターを利用しての研修会や講座はもちろん、商品展示会、職員の採用試験、英語教室や書道教室のサークル活動、立食パーティーなど幅広くご利用いただいております。



### 【利用料金】

<b>研修室1 (全面)</b>			
午前 (9時~12時)	10,600円		
午後 (13時~17時)	14,100円		
夜間 (18時~21時)	10,600円		
全日 (9時~21時)	35,300円		
<b>研修室1 (A)</b>			
午前 (9時~12時)	4,300円		
午後 (13時~17時)	5,800円		
夜間 (18時~21時)	4,300円		
全日 (9時~21時)	14,400円		
<b>研修室1 (B及びC)</b>			
午前 (9時~12時)	3,200円		
午後 (13時~17時)	4,200円		
夜間 (18時~21時)	3,200円		
全日 (9時~21時)	10,600円		

## 編集後記

毎日、暑い日が続いておりすが、いかがお過ごしでしょうか。プロ野球もいよいよ佳境に入ってきましたが、皆さんの好きなチームはいかがでしょう。私の好きなチームは前半戦の勢いはどこへやら。しかし、昨年までと違い、一時的な夢を与えてくれたことに何故か満足してしまいます。現状ではハフル時の株価みたいなものですが、今後は将来を見据えたチーム作り(経営)を期待したいと思います。

さて、今回の企業拜見では、星光化学工業(株)を訪ねました。社会生活を支える無数の品々。その一つ一つを良いものに仕上げるにはいくつもの必要条件がありますが、製品を見ただけではわかりませんが、その各パートを担う産業の存在を改めて感じさせられました。誌面で紹介しましたが、11月に「99AKASHI産業フェア」を開催する予定です。こうした「ものづくり」の魅力をもっと紹介できればと考えています。企業の皆様の参加を心からお待ちしております。

**AICC NEWS**  
 第4号  
 発行日 1999年(平成11年)8月6日  
 発行 財団法人 明石市産業振興財団  
 明石市大久保町ゆりのき通1丁目4番地の7  
 (明石市立産業交流センター内)  
 TEL. 078-936-7915  
 FAX. 078-936-7916

明石市立産業交流センター1F  
  
 各フロアーへ出前致します  
 ☎936-7915 (内線呼出)